

令和6年3月8日

作成者：総務課行財政改革推進係

令和5年度 市川三郷町行財政改革推進計画策定に伴う住民説明会

－ 会議録 －

- 1 日 時 令和6年1月20日（土）午前10時00分から午後1時00分まで
- 2 場 所 市川三郷町生涯学習センター 2階 多目的ホール
- 3 出席者 【参加人数】154人
- 【町役場】町長 遠藤 浩
副町長 依田誠二
教育長 渡井 渡
- | | | | |
|------------|------|---------|------|
| 総務課長 | 一瀬 浩 | 政策推進課長 | 井上靖彦 |
| 防災課長 | 林 茂一 | 財政課長 | 森川規彦 |
| 町民課長 | 望月和仁 | 税務課長 | 芦沢 正 |
| いきいき健康課長代理 | 赤松宏直 | 子育て支援課長 | 渡邊浩志 |
| 福祉課長 | 海沼良明 | 介護課長 | 櫻井 茂 |
| 農林課長 | 丸山章仁 | 商工観光課長 | 望月順二 |
| 生活環境課長 | 丹澤宏友 | 土木整備課長 | 立川 潔 |
| まちづくり推進課長 | 渡辺 潤 | 会計管理者 | 立川陽子 |
| 三珠支所長 | 深澤美佳 | 六郷支所長 | 木村竹実 |
| 議会事務局 | 保坂秀樹 | 教育総務課長 | 相川由美 |
| 生涯学習課長 | 塩沢正也 | | |
- 【事務局】広聴広報係長 高柳咲子 総務人事係長 石原一彦
情報化推進係長 相川伸也 財政係長 深澤正弘
行財政改革推進係 伊藤昌也 外
- 4 会議内容 (1) 開会
(2) 町長あいさつ
(3) 計画概要説明
(4) 質疑
(5) 閉会

5 会議経過

(1) 開会 午前10時00分

(2) 町長あいさつ

町長のあいさつの内容は、次のとおり。

本日は市川三郷町行財政改革推進計画住民説明会を開催いたしましたところ大勢の皆さまにご参加いただき心より感謝申し上げます。

私が町長就任以来、行政改革、財政改革を強力に進めておりましたが、今年度に入り行財政改革推進のための部署を設置し更に強化し、その推進体制が整ったことから、9月19日に「財政非常事態宣言」を発出いたしました。財政状況の認識を共有し、ピンチをチャンスに変える反転攻勢の転換点としたものです。この宣言は私たちが想像していた以上に大きなインパクトがあり、10月の住民説明会では今まで政治への関心が高くないと思われた若い方の参加が多く見受けられ、積極的に未来へ繋がるような発言をしていました。

宣言発出以来、町内外の多くの皆さま方から応援の声をいただいております。具体的にはこれまでに、ふるさと納税へのアイデアや支援、企業版ふるさと納税でのご寄付、ネーミングライツ契約、地域活性化策へのアイデアや取り組みなど。また、現在、いくつかの個人、団体と地域活性化策について定期的な会議等進捗してございます。

この度、役場内行財政改革推進組織、外部有識者からなる推進委員会、住民の皆様から頂いたパブリックコメント、12月町議会での議論を踏まえて「行財政改革推進計画」を策定することができました。

この計画では、本町が取り組むべき行財政改革の方向性として4つの基本方針を掲げた上で、計画期間である令和7年度までに取り組む具体的な内容30項目をアクションプランとして示させていただきました。

全ての施策の総点検、適正化を図り、その結果生じた縮減経費をもとに将来への投資を積極的に展開することで、持続可能な市川三郷町を目指すものであり、現時点でみんなが決めた最高位の計画だと思っています。

これからが本番というべき行財政改革の推進には、町民の皆さまのご理解、ご協力が不可欠であります。

財政非常事態宣言以降申し上げているとおり、一刻も早い推進は明るい未来へ近づく第一歩となりますので、引き続き皆様のご協力を願います。

(3) 計画概要説明

資料に基づいて総務課長より説明。

(4) 質疑

参加者からの質疑は次のとおり。

－ 発言者 －

参加者

－ 発言内容等 －

三珠地区、下九一色の者です。ご指名をいただき、ありがとうございます。一部事務組合等のあり方についてお聞きします。既にご存知の方もおられるかと思いますが、改めて市川三郷病院の建て替えに伴う基本方針案の内容とそれに伴う意見を述べさせていただきます。令和5年9月議会一般質問の会議録では、峡南医療センター企業団、組合外に施設整備検討委員会が14名の委員構成で設置されました。国県による持続可能な地域医療提供を確保するための公立病院経営強化ガイドライン策定通知に伴い、富士川病院の今後のあり方および市川三郷病院の建て替えに伴う基本方針案が示されました。基本方針案の内容は、1. 市川三郷病院の建て替えに伴い入院機能を富士川病院に集約し、市川三郷病院を無床診療化する。2. 機能分化、連携強化を伴う施設整備に関わる病院事業債の処置の対象要件および対象経費等、3. 入院機能は、富士川病院に集約し、市川三郷病院を診療所化することで、将来にわたり市川三郷病院での外来機能を拡大する内容です。また、今後については、公立病院経営強化プラン書案の提出、説明、承認の経過を12月末までに、山梨県に報告。これは既に昨年の12月8日に報告済みであります。令和6年3月末までに総務省に提出する内容であります。なお、令和9年度中に市川三郷病院の建て替えを完了し、令和10年度から新病院の運用開始をすることを目標に検討されています。医療センター開設者である町長は、「市川三郷病院建て替えについて、町民への適切な医療提供、外来機能の充実が重要。基本方針案は、これらの考えに沿ったものであると受け止めている」と答弁していますが、本当に基本方針案は、町民への適切な医療提供を行える内容と思えるでしょうか。私は基本方針案の問題点等を幅広く町民からの意見をもとに、少なくとも市川三郷病院は、入院病床を含め、現状規模の病院が必要と考えます。それでは、質問をさせていただきますが、質問の事前通告は受け付けないということですので、答弁は、内容の分かる方をお願いいたします。まずは、令和5年9月議会だよりでは、答弁において、基本方針案の言葉は使用するものの、基本方針案の説明はされない内容です。町民が理解できる議会だよりではありません。再考を求めます。この答弁は要りません。質問をさせていただきます。峡南医療センター企業団、市川三郷病院、富士川病院の令和4年度における決算報告書の1日平均入院患者数、病床数、

病床および利用率および稼働病床数、稼働病床利用率をお聞かせください。関係の方の説明を求めます。

町長 ありがとうございます。市川三郷病院の建て替えについては、ご質問いただいたことを議論をしていると思います。今後、またその部署との協議が進んでいくことと思います。今の状況、病床使用率の詳細なデータは持っていませんが、現状や将来の医療需要の推計を含めた上で、今回案を示させていただいたところです。今からインフラ整備をしていくことは、この計画と全く同じでございます、今から税収はどんどん減ることが予測されます。

参加者 いいですか（挙手）。質問に答えておらず、わかりません。

町長 今、詳細なデータはございません。

参加者 余計なことは聞いてません。先程、資料がないと言っていました。私は事前通告いたしますと言ったけど、受け付けないということでしたので、答弁の内容はわかる人にお願ひしますと言いました。事前質問を受ければ、回答できると思います。それでですね、私の方で、調べて説明をいたします。まず市川三郷病院の令和4年度の入院患者数1日平均は25.3人、病床数は54床、利用率は50.6%、稼働病床数は54床、稼働病床利用率は50.6%と、2年度3年度4年度と上がっています。富士川病院の入院患者数は1日平均87.1人、病床数は158床、病床利用率は55.1%、稼働病床数は133床、稼働病床利用率は65.5%で、これも2年度3年度4年度と約70%をキープしてます。なお、市川三郷病院の病床数の内、2階部分の40床は、老朽化に伴い使用不能のため、病床数、稼働病床数は90床から50床の設定であります。しかし、決算報告書では90床で計算されているわけです。訂正が必要ではないでしょうか。関係の方の説明を求めます。富士川病院の病床数は158床で、病床稼働病床数は133床です。2年度から4年度の3年間の稼働病床利用率からいっても、市川三郷病院の入院病床は維持されなければなりません。また、富士川病院への入院病床を全て移管した場合には、入院病床は機能不全を免れないと考えます。なお、設定稼働病床数、稼働病床利用率が決算報告書に記載されていないのは不自然な決算報告書と考えます。関係の方の説明を求めます。以上、決算報告書における説明と見解を述べさせていただきました。事務局に令和2年度、3年度、4年度の決算報告書を提

示いたします。先程言ったように、市川三郷病院の病床数が 90 床から 50 床であるにもかかわらず、決算報告では 90 床になってます。そのことが一点、あと設定稼働病床数、稼働病床利用率、これが決算報告書には記載されてません。特記も入ってません。一番大事なのは、稼働病床利用率なんです。稼働病床利用率っていうのは、今現在使われてるのは、看護師さん、医者、そういう人が確保できて、初めて、例えば富士川病院に行くと、病床数が 158 ですね。しかし、設定病床数は 133 なんです。ていうのは、満床にできないって言うのはご存知の通り、病院医師とか看護師の確保ができないからですね。今現状の市川三郷病院の病床をなくして、先ほども言ったように、富士川病院に集約した場合には機能不全になります。なんで、市川三郷町にも一部事務組合のある市川三郷病院の病床がなくなるんですか。市川三郷町の人たちは、富士川病院に行けばいいと、それだけのことですか。今の決算報告書を出しましたんで、4 年度だけでも見てください。2 年 3 年 4 年とありますけど、それについて、答弁をいただければと思います。わかる人でいいです。

町長 私ども今回のこの行財政改革の 17 ページですね、効率的・効果的な行政運営の中で一部事務組合との連携強化の記載をさせていただいております。そういった専門的な知識が、現在の役場機能では持ち合わせておらず、これをしっかりと今後は進めていき、組合のどんなところに課題があって、どういった経営状態なのかということ把握することが行財政改革の中での考え方でございまして、将来的には適切なニーズ対応をしていくということでございます。具体的な行動としては、アドバイザーの設置でございます。これは県や総務省などの制度を活用して対応していくといった内容でございます。ご指摘いただいている件につきましては、極めて専門的な部分でございますので、またこちらの方で調査をし、回答させていただければと思います。

参加者 改めての回答は要りません。そこまで言うのであれば、どうして事前通告を受け付けないんですか。事前通告を受け付ければ、どんな回答も調べることができ、はっきりした説明ができるじゃないですか。この行財政改革には、事務組合も、もっと大きな問題も入ってますね。事務組合の中でも訪問看護ステーションもありますね。今回はあえて取り上げません。これだけの課長職や専門職、事務方がいるんだったら、ましてや町長、町長は医療センターの開設者なんです。責任者ですよ。病院

の建て替えについても、それが何でアドバイザーなのか。9月の議会の答弁も見ました。ホームページも見ました。町長の、市川三郷病院の建て替えは公約にも入っているじゃないですか。だけど、一部事務組合に丸投げして、市川三郷病院の病床数の確保もできない。さっき言ったようにですね、90床あるけど、使用不能で50床しかない。その50床を、富士川病院がどうやって受けもつことができますか。市川三郷病院の看護師と医者を持っていけば、事は足りると思ってるんですか。今、富士川病院は、遷延性意識障害患者の利用ができないんですよ。申請しているんですよ富士川病院は国に。しかし患者はいるけど病床数がない、医者がない、看護師がない。市川三郷町のそういう町民のニーズに応じられない現状がわかってますか、町長。あくまでも、それは市川三郷町から5人、富士川町から5人。議会からも組合議員として出てます。それに対して全くの丸投げですか。最終的な判断は町長ですよ。医療センターの開設者である町長ですよ。そんなことでは、どんな改革であっても意味がありませんよ。冒頭発言に戻りますが、基本方針案における富士川病院に入院機能を維持し、市川三郷病院を無床診療化することには、諸事情がどうあろうとも理解できる内容ではありません。再度申し上げます。市川三郷病院は、今後においても必要不可欠な病院です。入院病床を含め、現状規模の病院の建て替えを再度検討していただきたい。先程資料を渡した中で、決算において、稼働病床利用率、稼働病床数、これは決算上に明記されないんですけど、専門的な感覚からいって、なぜ稼働病床利用率が明示されないのですか。総務課長。わかりますか。

総務課長

総務課長の一瀬です。お答えさせていただいてよろしいでしょうか。我々としても専門的なお話をいただいていると思っております。町民の皆様も非常に興味深くお聞きになっていただいていると思っておりますが、本日の説明会の内容とは若干、異なっていると思っております。そのため町長は先程、それについては個別対応させていただきますというお答えだと思っております。できれば、本日の内容に沿ったご質問をいただけると、町民の皆様にもご理解いただきやすいと思っておりますので、ぜひご理解いただきたいと思います。

参加者

終わりたいと思いますが、私は、当事者として切実な思いを抱いています。令和10年度に開業になって、病床がなくなった市川三郷診療所になったときには、不安を感じます。全く市川三郷町に期待するものではありません。

参加者

私が質問したいのは、町長は今日の会議の目的ではないと言われるかもしれませんが、町長が財政非常事態宣言を発出した理由について、私としてはどうしても理解できないということです。この点を明らかにしてほしい。ここに持ってきましたのは、知ってほしい町の予算で全戸に回覧されたものです。これには非常に貴重な情報が載ってるんですけども、この4年版、5年版には財政破綻を免れるように、これ以上の財政悪化を防ぐために機構改革を進め、経費削減の努力、普通建設事業の大幅削減等を実施していかなければなりません。そして数年先には充当可能財源である財政調整基金、減債基金、地域振興基金が底をつく事態も想定されるため財政の抜本的な見直しのため、厳しい令和4年または5年度予算編成となりました。この通りだと思います。このように、財政調整基金が底をつくことも想定されるということは、令和4年度、2022年度からわかっていたことです。実質公債費比率や将来負担比率についてもこの書類の中ではうたっています。こうした厳しい状況の中にあるわけだから、厳しい予算編成をして、様々な行政改革を進めていく、こういうふうになっているわけです。こうした中で、2023年6月定例議会において、笠井雄一議員の質問に対して、町長は「財政につきましては、健全な方向に向かっているという認識」、こういうふうに答えました。「進めてきている行政改革の効果が出ている」、こういうふうに言っています。ところが、9月定例議会を迎えると、答弁が変わってきています。これも笠井議員の一番初めの質問に答えたものですが、「行政改革の取り組みや議員を初め町民の皆様とこの危機的な状況を克服するために、決意を共有することが不可欠であります。このため、町民・議会・行政が一体となり、オール市川三郷町で行政改革を推進できるよう、本定例会閉会后、財政非常事態宣言を発し、この危機を皆様とともに報告してまいりたいと考えております」と言っています。5月には、この知ってほしい町の予算の中で、行財政改革への取り組みの基本方針を述べて、「6月の議会では財政につきましては、健全な方向に向かっているという認識」、こう言いながら、9月には突然、財政非常事態宣言発出。これはどういうことか。この点をはっきり町民に説明していただきたい。

町長

今のご質問ですが、ここだけ切り取って、ご議論いただいておりますが、これは令和4年度の決算について回答したというふうに理解しております。令和4年度は、今まで4年連続で赤字決算、また地域振興基金を使って令和3年度は黒字になりましたけれども、令和4年度の決算に

つきましては、基金を積み上げることができまして、黒字になった状況を説明したと思っております。

参加者 それからですね、まずこの6月から9月に至る経過の中で、何が変わったかについては触れられていません。6月から9月の間に何があったのか。さっき町長は挨拶の中で推進体制が整ったと言いましたが、それが理由とも思えない。いろいろ考えてと言いましたが、この間何があったのかなと思っていろんな資料を調べてみましたら、7月31日に市川三郷町行財政改革推進委員会というのが設置されていまして。ここで何か話されたのかなと思って、議事録を見ました。議事録にも、非常事態宣言のことは何も触れられていません。いいですか、議会でも何も論議されないで、いきなり提出されてるんです。全くの公式の場でそういった議論がされていないということで、みんな呆然としたっていうのが実態ではないかなというふうに思います。これでは本当に町民を無視した、町民にただ危機感を煽ったというだけの結果になるんじゃないですか。皆さん、この非常事態宣言を聞いて大変だっていうふうに思って、町長が言うんだからそれを信じちゃってるんです。こういう形で、これからの計画が推進されるっていうことで、この財政非常事態宣言は10月の説明で全て終わっている。ここに参加してる皆さんのほとんどが感じていると思いますが、この部分に触れるような発言がないことが、どうしても引っかかってくるんです。次にですね、12月の議会の問題をもう一つ取り上げたいと思います。12月の議会の中で、一瀬正議員の方で、「この財政非常事態宣言がなぜ発出されるのか。」さらにその理由として、「財政調整基金が7年後に底をつくと言われてるけれども、それはどういうことなのか、詳細な資料を求めます」と本会議の一般質問の中で質問をしました。それに対して町長は何と答えたかという、「本年度末までにご提示します」と答えています。本年度末とは、いつですか。2024年の3月までについてということですよ。そんなことがあるわけないと思うんです。この点はどうしたんですか。

町長 まず後半の質問でございますが、これは一瀬正議員が、最終日に緊急質問ということでいただいて、もっと早く出すべきということでした。そのときの答弁は、今年度中をですね、本年中にということ、お答えをさせていただきました。その上で、この行財政改革推進計画を発表する直前に、議員さんには、その資料の提出をさせていただいたということでございますので、ご理解をいただきたいと思います。また前半の部

分なんです、なぜ6月から10月に変更があったのか、9月補正だということなんです、こちらの資料にありますポンチ絵をご覧くださいと思います。まず今年度に入りまして行財政改革を推進する行財政改革推進係というのを設置いたしました。今までは通常の業務の傍ら、行政改革や財政改革の業務を行っていたわけなんです、今度専門的な部署ができたわけで、それが一極集中してちゃんと前に進めるという事務局というふうになったわけでございます。その中で推進本部が設置をされ、課長たちで構成される幹事会、そして係長以下構成される検討部会で諸事業を検討していくということで、こういった体制ができました。それから外部の行財政改革推進委員会、これが設置をされて、外部の意見をいただける体制ができました。それを受けて、9月議会では、私の方から、非常事態宣言を発出をしますよということを申し上げ、議論の中で、確かその質疑はしているというふうに記憶してございますが、事前に議会の中で示しているということで記憶をしております。

参加者

今の回答について、組織を作ったからといって非常事態宣言をするという必然性は何もないではないですか。その組織が中心となって決められた方針に基づいて、行財政改革を進めていけばいいわけでしょう。何ら理由にならない。この確実に着々と進めなければならない行財政改革を、非常事態宣言をすることで、一気にいろんなものを刈り取ろうとしてるやり方だと私は思います。それから先ほど一瀬議員の質問の部分で年内にということが出されたことも知っています。そういう中で私自身、うちの女房の名前で資料の提出を求めたんですよ。プロジェクターで示せないんですけども、提出された、これが根拠だという資料は手に入れました。これには何て書いてあるかっていうと、令和4年度市川三郷町普通会計財政計画というふうにあるんですね。これで年度がずらっとあって、それぞれの取り組みが各費目の数字がずっと並んでます。これの3年度のところで決算額とあって、4年度のところに見込み額、5年度以降が一般計画数値となっております。このことからわかることは、これは令和4年度の決算が決まってから、次の年度の決算が決まる前に既にあって、町の中では検討されてた内容だと思います。さっき9月の議会で議論したんじゃないかなという曖昧な回答でしたが、こういうのがあれば、なんで財政非常事態宣言が必要なのかっていうことが、当然もう喧々諤々で9月の議会で論議されて当たり前だと思うんですが、それがされてない。そしてなおかつ、一瀬正議員の一番最初の、質問要求に対して、本年度末にならないと提出できない、こういうふうな

回答をしたってということはどういうことなんですか。議会を全く無視しているとか言いようがない。本当に議員たちに情報を共有するならば、議員の皆さん、こういったものがこうなってるからこうだということ、徹底的に議論する必要があるんじゃないですか。この中身を見ると経費が高いところの現状を、ただ横ばいにずっと並べてコピーして貼り付けただけなんです。例えば人件費のところを見ますと、一番最低のところと一番高いところでは2億何千万っていうふうな差があるんですね。これは、旧3町が一緒になって、いろいろ職員の数が自然減となって、そういう最低限のところってのがあったわけですけども。それがいろんな中で徐々にちょっと膨らんでしまった、コロナもあったから膨らんだんでしょう。そういうところを固定して横ばいにしてしまって、これだけ経費がかかって、7年後には財政調整基金が不足するみたいな形になっちゃってるわけです。これは毎年毎年、財政計画ってのは立てられて、見直されていくわけですよ。そういう中で、皆さんが今進めようとしている行政改革を進めていけば、確実に少しずつ変化していきます。この将来負担比率でも、この3年間ぐらいは徐々に減ってきてるんですよ。そういったことに皆さん自身が自信を持ってやっていただければというふうに思います。このままの状態、もう六郷でもね、この説明会を開いてきましたけれども、新聞のニュースでだいぶいろんな反対意見みたいなものも多かったと聞いています。このまま町長のやり方でやってしまうと、本当に地域間の格差が拡大してしまう。せっかく一体となったこの市川三郷町というものが、地域ごとに分断されてしまう。この市川地区を取ったってそうですよ。市川大門と、例えば大同とか、それから大木、法師倉、こういったところとの格差がどんどん出てしまう。サービスの濃淡が出てしまう。こういったことが進んでしまうんです。あと最後に1つ、ぜひ、こういうふうに進めていただきたいということでお願いの部分だけ言います。いろんな組織を作りましたけども、行財政改革は各課、各係を基本にして進めていただきたい。これが1番だと思います。私はいろんな形でまちづくりや教育委員会、いろんなところに協力いただきながら、いろいろ接触もしてるんですけども、そういう中で、その担当者が異動してしまったからわからないとか、会計年度任用職員の方が退職されたからわからないとか、こういうことを今までも経験してるんです。上の人に聞けば、係長さんや課長さんが、いやそれはわからない。こんなことで行財政改革が進むわけがないと思うんです。とにかくその課、係がやってる仕事をどんな処理の仕方ですべてしているのか、こういったところをよく熟知して、そういう中で何が

複雑なのか、やり方が間違ってるのかっていうところを徹底的に捉えていただきたい。本当にパブリックコメントの中でも、町の職員が何やってんのっていう意見が多々あったんですよ。でもね、そのやり方がわからないのかもしれないし、そういった教育とか、いろんなことも含めて総合的に取り組んで、ぜひ課や係を中心にして、進めていただきたい。ぜひこれをお願いしたいと思います。最後に一言だけ、六郷の説明会に関する新聞の中でこういうふうに出てました。このままいけば市川三郷町に未来はない。私はね、最後にこの言葉を追加して終わります。このまま、町長の行財政改革を行ったら市川三郷町に未来はない。このことを強調して私の意見を終わります。

町長 大変ご議論いただきまして、ありがとうございます。何点かポイントがございますので、お話をさせていただきたいと思います。まず、財政非常事態宣言の捉える意味が私どもの発信をしているものと、ご理解されてる部分が若干違うのではないかと思いました。申し上げました通り、財政状況の共有ということが一点と、それから反転攻勢の転換だと。要するにご議論いただいていますように、これから改革をしていきますよ、という宣言だというふうに申し上げているわけでございます。それから六郷の議論ということで新聞の掲載をご指摘をいただいているわけなんです、新聞記事っていうのは、やはり切り取る部分あって、その後段があってですね、これだけの大切なものを改革をするのだから改革をしっかりやってくださいって後があるんです。そして六郷の説明会が終わった後には拍手が出ました。頑張れという。後ほど議事録はしっかり出しますので、よく見てください。そして課や係が主体となるというふうなことでございますが、これは年末年始の訓示の中で、今回の改革は課や係が主体となるようにということで申し上げた次第でございます。

参加者 これから職員さんも退職される方もいると思うんですよね。それから年度初めになるとまた職員が変わりますよね。年度末と年度初めで考え方が変わったりしないですかね。果たして職員は一貫した答えをしてくれるのでしょうか。

総務課長 ありがとうございます。我々職員が例えば4月に機構改革や人事異動があったとしてもですね、町全体としてこの方向性は職員全員で取り組んでいきますので、温度差がでないように頑張っていきたいと思いま

す。

参加者

市川に在住の者です。関連があることなので取り上げていただきたいんですけども、市川大門駅の人員カットのことですね。これね、12月の下旬に見たんですよ、パブリックコメントを。びっくりして広報見たら、ちょうど年末にインフルエンザで家で寝てたんですけども、広報が回ってきたら、無人化なんて出ていました。前のものも見たら新聞にも、載ってました。行財政改革推進計画は公表しているけれども、財政が厳しいから、駅は無人化でやめますということなんですけれども、誰が一体どこで急に決めたのか。それで私も困るから、役場に聞いたら、決まりましたって係の方から言われてまして、困ってます。JR東海にも聞いたら、JR東海もまだ町から聞いてませんよって言ってました。1月5日だったんですよ。それから経って1月10日になったら、今度は聞いておりますとの回答でした。急用があつて、例えば西の方へ行くときには、どうしたらいいですかって聞いたら、これは車掌に相談して、券を買ってください。あと前売券とか予約券は東花輪駅で買ってくださいと。東花輪駅に昨日行ってきたんですよ。だけど、休み時間中だからか交代するんだか知らないけど、業務をやっている時間が少なかったりしているので、非常に大変だと思います。だから、どうして急に計画にないものを決めちゃったのか、その辺を知りたいです。この町には、生徒が通っている青洲高校もありますよね。それで市川から、例えば違う高校へ行く人もみんな鉄道利用して行ってると思うので、その辺、町長、副町長、教育長、どういうふうにお考えになるのか。町民の足を奪ってまで、改革をやっていいのでしょうか。私は単純にそんな細かい計画のなんていうか数値とかはわかりません、はっきり言って。改革はしていただきたいんですけど、急すぎてついていけないですよ。その辺をお答えいただきたいです。

政策推進課長

政策推進課長の井上靖彦と申します。市川大門駅のきっぷ販売の営業終了の件でございますけれども、こちらの方はですね、本町では、JR身延線の駅が7ヶ所ございます。そして利用者の減少により、平成24年3月に最後の有人駅でありました鰯沢口駅が無人化となりました。これによって町内の駅の全てが、無人化ということになりまして、乗車券など買える場所が欲しいという声がございます、町内の利用者が最も多い市川大門駅に関係各所、多くの方々のご尽力をいただきまして、平成25年3月に、町単独で採用した会計年度任用職員を置いて営業を開始いた

しました。営業を始めたんですけども、近年ですね、新型コロナウイルス感染症の流行による影響、更には大きな収入源となっておりました甲西工業団地への出張者が激減いたしまして、販売利用者も減少し、累計で5,000万円の赤字という状況でございます。そういった現状を鑑みまして、切符販売の方は終了ということになりました。ちなみにですね、営業開始後一番収入のあった平成28年において、年間の管理費、市川大門駅の管理費は773万円年間かかります。収入については、363万8,000円の乗車手数料をいただきました。これでも、赤字が409万2,000円、そして直近の令和4年では、乗車の手数料の売り上げは194万3,000円ということで、直近では578万7,000円の赤字というようなことございます。財政状況を鑑みまして庁内で検討した結果、市川大門駅の方は無人化というようなことで、JRの方には12月の初めに南甲府駅が管轄しておりますので、そちらの方に説明をしまして、そのときには静岡支社の担当の課長も来ておりますので、JRの方には周知しております。そして、1月の広報で載せましたけども、皆様ご利用をいただいておりますので、できるだけ迷惑がかからないように、3ヶ月前にホームページまたは駅の改札に張り紙をしまして、周知いたしました。

参加者 それはわかるんですけど、物事を決めるときに道理が通らん決め方はおかしいと思いませんか、政策推進課長。こういう赤字があるから、すぐ切っちゃまえじゃ困るじゃないですか。私68歳なんです今年。あなただって80いくつになったときに、車も乗れん、電車を使おうにも東花輪まで行かないとならん。どうします。そういうことも考えてください。人間老いるときはくるんですよ。今回の事態になったのは、夕張市の関係でNHKで特集されてみてましたけど、市川の場合は、はっきり言わしていただくと、町長の談合から始まって、議員が悪さをして、圧力をかけられた課の当時の課長さんあたりの方がちゃんと意見を言えなくて、そして財政が破綻に向かって、それを困ったな困ったなってやっててこうなっちゃったんでしょ。赤字になってたんじゃ黒字になるように努力しないと駄目じゃないですか。町民にも働きかけて、今クラウドファンディングってのがあって、寄付型の地方公共団体の使えるものとかあるんですよ。せつかくね、四尾連湖もあって、アニメーションにもなったじゃないですか。あれで市川だって四尾連湖が結構話題になったりして、お客さんだってPRしたら来ると思いますよ。花火のときだってあの駅はメインになってすごい人じゃないですか。そういうときに、こっこの町も儲けるようなことを努力してこなかったから、こうなっちゃった

と思います。今回のことはもう出てることですし、そうなったら私ごときが反対してもそれで行っちゃうと思うんですけども、今後いろいろ決めるときは、ちゃんと議会を通して、駅くらいのことと思うかもしれませんが、大事なことだと思います。改革するのは結構ですけど、町民とともに総務課長が前におっしゃいましたね、10月18日に。これじゃ、町民とともにじゃなくて、町民に一応言ったから何やってもいいじゃないですよ。ここに集まった人は、熱心な人だから来ている。ちょっと歳をとった人とか、諦めちゃってる人は誘っても、どうせ行っちゃってなんて言う人も結構いました。だからそういうことも考えていただきたいです。要望です。5,700世帯ほどあるので、私は全員にアンケート出せとは言いません。1万5,000人も出すのは財政も厳しいのだから、せめて1世帯ずつ発送して、今回の内容をダイジェストでも何でもいいから出して、意見集約したらいかがですか。私はそれをやってくれると思って待ってたんですけど、ただLINEを見ろ、広報を見ろって、広報なんて見てない人もいますよ。町民を甘く見ないでください。これで若い人が市川三郷は嫌だ、田富や甲府に行っちゃおうなんて話が出てるんですよ実際に。私の知り合いも南アルプス市にいますけど、高校受験のときに、学力同じなら不便な青洲高校じゃなくて地元のところでいいじゃんねって言うから、そんなこと言わんで青洲来るさよって言いました。その辺をよく考えて、ただ赤字だから切っちゃえじゃ私はちょっと。行政というものは、住民の生活を支える部分もあるんですよ。年寄りが1万5,000人の人口で30%、2050年には人口も9千人切るらしいですよ。そのうち年寄りばっかで、役場行っちゃって年寄りばっかになっちゃいますよ。だからそうならないよう育てるには、うまくやってください。ふるさと納税だってあるし、市川三郷町を助けてくれって、財政危機ばかりじゃなくて、市川三郷町を良くしてくれって言ったっていいじゃないですか。その辺をよろしくお願いしたいです。

参加者 山保の者です。財政非常事態宣言について、私なりに感じたこと、あるいは町長に対する苦言を申し上げさせていただきます。今回の財政非常事態宣言は、町長が一方的に町内の住民だけでなく、全国のマスコミにも発信をいたし、反響は多く寄せられていると思います。私も県内の友人だけでなく、県外の友人からも市川三郷町大変なことになったな、北海道のかつての夕張と同じようになってっちゃうのか、というふうな心配の声を寄せられております。この手法は、私は問題があるかなと思っています。なぜなら、町長は政治経験も長いわけですよ。県会議

員も直前までやられております。市川三郷町の財政状況も当然津々浦々まで実態を把握されていると私は思っております。そういう町長がですね、本来ですと立候補する2年前に私は市川三郷町をこういう町にしたいと、しっかりしたビジョンを示して、そのためには行財政改革をなくちゃいけない。スクラップするものはスクラップしてビルドするものはどういふものができるということを本来打ち出して、今回の行財政改革を進めるべきだったんじゃないかなというふうに感じております。そこで今回の宣言はメリットは何かと私なりに考えました。町民にショックを与えて、これからの行財政改革を進めるために、しょうがないじゃない、そういうふうに思わせるような宣言であったのかなというふうに思います。町長がこれからスクラップとかする事務事業も、しょうがねえやな、財政がそんなに厳しいじゃ、こういうふうになってしまうかもわからない。それが私はよくないなと思っております。なぜかっていうデメリットを申し上げます。先ほど言いましたように北海道の夕張市、これは財政再建団体に指定されました。財政再建団体といえば、町や村が企業で言えば倒産をするというふうなことで、新たな借金もできない、あるいは町民税を上げなければ運営ができない。本来のサービスに限られたものしかできない。こういう夕張市の実態がございます。それで何が起きたかといいますと、若者がその街から逃げ出しました。残ったのは、私のような高齢者、今更よその街へ行って仕事をするわけにいかない、そういう人たちがしょうがなく残ったというのが北海道の夕張市の財政再建団体の実態。この財政再建団体と今回の財政非常事態宣言が違うよと、こういうふうにおっしゃるかもわかりませんが、イメージ的に言いますと、よその県の人たちからすると、同じような、いよいよ夕張市のもう少し手前かなというふうに感じられているかと思えます。ですから、この辺はこれからの行政を、例えば企業誘致をしよう、あるいは若い者に住んでいただくということからするとマイナスになったなというふうに懸念されます。広報の中にも出ておりましたが、一家の家計簿の状況などに照らし合わせて財政状況を説明しております。その中で収入はサラリーマンでいえば給料だけということになるわけですが、その給料が減り続けているわけです。こういうことのようにございます。そうすると、給料をどうやって増やすかをこの行革の中では考えなくちゃいけないんです。そういう視点で計画書読ませていただきましたが、しっかりしたビジョンが示されていないというふうに思います。非常事態宣言で、いわゆる倒産寸前の町に誰が住みたいか。あるいは町外からこの町へマイホームを建てて住みたいと思うか。私はないと

思います。実は私の息子も県外へ居を構えています。今回のこの宣言でショックを受けてるという話を聞きました。生まれ育った町が、いよいよ財政が破綻しちゃうのかということ、少しでもふるさと納税してやらずにちゃんという話を聞きました。実際したようでございますが、そういうふうには県外にいる人たちが心配しています。ところが、今回この行革の意見を述べる機会が与えられたのは、ここに住んでいる私達だけということ。町外にいる人、町出身であっても、あるいはふるさと納税をしている方であっても、意見を述べるできないということでありまして、息子自体もショックを受けているということでございます。やっぱり、いろんな意味で意見を述べる機会を持って欲しかったなというふうに話を聞いております。問題はですね、町を逃げ出してしまえばどうなるか。今さら申し上げることはないですが、町民税が減りますね。固定資産税も減ります。町の収入の基本は町民税と固定資産税なんですね。あとは国からくる地方交付税がありますが、基本になるものが減れば財政は厳しくなって、事務事業の見直しをしても新しいビルドができない。こういうことに繋がりがかねません。ですから、私は財政非常事態宣言をしなくて、町長が新しい事業を示してこういう町にするから、行革をやるよと、みんな協力してくれるよねということを2年前に本来訴えるべきだった。賢明な遠藤町長がそうであって欲しかったなというふうに私は思っています。そこで申し上げますと、今の財政状況、確かに令和3年度の決算で経常経費の状況が98%を超えてるというふうに数字が出ていますが、直近で言えば、令和元年度に20数億、建設事業の予算で借金をしているはずであります。これから返済が始まるわけですから借金の残高はまだまだ増えている。しかし、令和5年度頃になると段々減少傾向にあるというふうに私は見ておりまして、財政力指数でいえば、県内の他の町などと比べてそんなに財政が悪いということではないというふうに見ています。ですから、先ほど申し上げましたように、非常事態宣言じゃなくって、こういう町を作るから頼むよという行財政改革宣言であったならば、もっとまた他の企業誘致にも動くでしょうし、あるいは若者も住み続けてもいいかなというふうに思うかも知れません。そこで、行財政改革を進めるにあたってでございますが、私はどの事業を削ってとか、こっちは良い悪いは申し上げませんが、先ほど言いました一家の家庭で言えば収入を増やす給料を増やすという視点で1つは申し上げておきます。町民税で見れば、令和3年度は6億9,000万、これは全ての均等割あるいは所得割とか含めた数字であります。平成20年度に比べますと約1億5,000万ぐらい町民税が減って

るんです。大変な額ですね。あわせて、固定資産税も平成20年度と比べれば1億円も減っています。両方合わせますと町の自主財源が平成20年度に比べて2億5,000万も減っちゃってるということでもありますから、このまま推移すると、我々が団塊世代の一員なんですが、現役の頃っていうのはそれだけ給料をもらってるから、町の町民税もそれなりに納められたということですが、残念ながらもう引退しています。年寄りが増えると町民税は増えないということになります。若い人がいかに住んでもらうかってことで町長には考えてほしい。先ほど言いましたように、財政が破綻したような町じゃ若い層が田舎とか昭和の方がいいということになったら何もならないですよ。改革やる意味がないということになりますから、そういうことがないようにするにはどうするかと、スクラップした事業の予算を何に充てるかをしっかり町長が打ち出さなきゃいけない。県内の市町村によっては給食費無料の制度、町にもあります。これだけ減らしたからその分はこちらを増やす。今、大体の小・中学生全体で900人かと思います。そうすると月5千円出したって約500万あれば年間の給食費無料ということなんです。何に使うかを考えて、若い皆さんに市川三郷町にマイホーム作ってくださいねって、こういう状況を作っていただきたいなと思っています。もう1つは、このところ全国的に増えておりますふるさと納税、市川三郷町も元年度は4億2,000万ぐらいですね。2年度が3億9,000万、令和3年度で3億6,000万ということで町民税の半分くらいがふるさと納税というふうに見えていい。このふるさと納税は、そういう面では大事でありますから、これから呼びかけをお願いしたいのは、市川三郷町の企業に勤めている町外にいる従業員の方々、これは役場の職員も同じだけど、ふるさと納税の協力の依頼をしていただいてもいいのかなど。少しでも、町外に住民税を収めてる人たちが市川三郷町にふるさと納税をする。そうすれば少しでも税収が上がるということに繋がりますので、その点をお願いしたい。あと1つは、神明の花火大会の見直しが載せられております。私はしっかり検証してほしい。私はボランティアの清掃サービスに参加したことがございますが、河口湖とか、石和は温泉地、あるいは観光地ですから、ホテルがいっぱいあります。諏訪の花火大会もそうですが1年前から予約がいっぱい。市川三郷町には、残念ながらそういうホテルもそんなにないわけがあります。ですから、この花火大会に来る人たちが1回で終わって帰ってしまう。そういうことでは、なかなか町の財政が良ならず、ずっとこのままだと思いますので、しっかり歳入歳出を見つめ直し、新しいあり方をしっかり町民には明らかにし

ていただきたいと思います。それから最後になります。石川県は能登の地震で大変な被害が出ています。集落が孤立する状況が生まれていますから、市川三郷町でも、そういう大地震や大災害がきたときに、一番先頭に立つのは町職員です。町の職員をただ単に減らせばいいということでは、私はないと思います。町の置かれている実態をしっかり把握して、職員を採用していただく、雇用していただく。併せて、職員の資質を向上して、職員がしっかり町のビジョンを提案できるような状況を作っていただきたいということを申し上げて、若干長くなって恐縮ですが、回答はそんなにいいですから。

町長 大変ありがとうございます。メモがあったらいただければ、今後の対応にさせていただきたいと思います。本当に私達がやろうとしているのは、スクラップアンドビルドでありまして、こういう改革をしていくからこそ、新しい未来に向かっていくということでございます。この70数ページにおよびます推進計画の一番最後にですね、「突破」。これは9月19日に発出したときに書きました。つまり、この推進をすることによって財政非常事態を突破して、それを次の宣言は突破しました宣言でありますので、これは私達のこの改革が進んだ、一歩進んだということを示せるというふうに思います。それから税収が減少しているというところなんです。GDW、確かに人口減少高齢化ということで昨年前は生産年齢人口、要するに稼ぎ手が3分の2ほどおりましたけれども、今現状では50%を切る状況でございます。これは住民税非課税世帯の約3分の1ございまして、税収が今後見込めない状況でございます。ただ、これを打開するための方法としてGDW、持続可能な町政もその原点となるものでございまして、それをお示しをさせていただいております。要するに、町内の企業の皆さんに収益を上げていただいて、それを原資に行政がプラスアルファしていこうということでございます。もう一つは関係人口、関係者を増やしていったり、先ほどご指摘をいただいたふるさと納税の寄付者を増やしていったり、あるいはこちらの方においでいただく方々を増やしていくということで、そういうことを原資に強い経済を基にした財政運営にしていきたいということで今いろんな政策を展開をしております。また、先ほどのふるさと納税についてでございますが、今非常に総務省の基準が厳しくなって、かなり私どもの出している返礼品の数が減ってきており、あるいは収益性が低くなったり、また価格競争に陥っている部分がございます。なかなか厳しい状況でございます。そういった中でも応援をしていただいている方々がいらっしゃっ

て、そしてふるさと納税に、コメントが書けるものがあります。そのコメントを見ると皆さん、頑張ってくださいというふうなメッセージをいただいております。今回新しい取り組みとして、クラウドファンディング型のふるさと納税、これも子育て医療無料施策に、定員を設定できるようにクラウドファンディングを呼びかけました。これが12月から始めまして3ヶ月間、3月31日までなんですが、1月1日13時の時点で目標額2,000万円に到達をいたしました。寄付者が今の時点で560名ぐらいだったと思いますが、感激いたしまして、全ての皆様にお礼の意味を込め、感謝という字を書いてですね、送ろうというふうに思っております。560枚自筆で全て書くというつもりでおりますので、それに奮闘しているところであります。そういう厳しいふるさと納税の状況ではあるんですけども、本当にいろんな方策で取り組んでいるところでございます。それから、神明の花火のことでございまして、これは今回で35回目、前回の大会から収益がどうなるんだろうということで調査をさせていただきました。まず、35回大会は寄付額が約4,500万円、そして有料観覧席が約4,500万円、ほぼ1億円に近い会計に成長いたしました。この1億円でですね、来場していただいた方へのアンケート調査から経済波及効果が24億4,000万となりました。これはご寄付いただいている企業様、そしてお金を払って観覧していただいている皆様によって、これだけ効果があるということを今後公表して参ります。これ速報値なので、固まった数字ではございません。それからもう1つは収支が黒字になりました。約1,000万円の黒字になり、今回、神明の花火実行委員会から町へ寄付をするという形を取らせてもらいました。これによって、ぼたんの花まつり、はんこのお祭り、大塚にんじん収穫祭が、ほぼまかなえるような状況になるということで、そういうご寄付をいただいている皆様、そして有料観覧席で高い席をお買い求めいただいている皆様には感謝をしております。また町内に経済波及があるような形として、個人の方の土地を利用した軒先パーキング、あるいは先ほど申し上げましたアンケート調査の返礼として本町の産業である判子や和紙製品を使ってお返しをし、町への経済にも波及するような方策をとってございます。この辺でまたご意見いただければというふうに思います。

参加者

市川大門の者です。今日、説明会ということで来ました。ところが、ここに書かれてあることがあまり具体的ではないんですね。ちょっと抽象的な綺麗な言葉がいっぱいあります。それで現在、財政破綻に直面してるっていうことを考えたときに、今までの説明を聞きましたら、節約

するとかですね、そういうようなお話がかなりいっぱいありました。企業が倒れかかったときに、鉛筆を最後まで使うとか蛍光灯1本2本切りますよとかいうそういう話であれば会社は倒れてしまいます。内面的に関することではなくて、外からお金をもらえるもの、例えば税収を上げるっていう方法や企業誘致、あるいは農業の改革を広げて売り上げを向上させ、町にお金が入ってくるというような、そういう外側からお金を入れられるような、そういうビジョンを市川三郷町が持っているのか、ということに期待して僕は来ました。そういう内側だけのものではなくて外からお金を入れるということが大事であり、町長さんがおっしゃったように持続可能なものになってくるのではないかと思います。何かビジョンをお考えにあるかをお聞きしたいと思います。お願いします。

町長 大変恐縮なんですけど、ホームページを見ていただくと全ての資料がご覧になれます。ご指摘をいただいた部分も入っているかというふうに思います。10月の説明会の際の資料で新しい地域経営ということでお示しをさせていただいております。これは市川三郷町を持続可能な町にするための、政策のマップ図というふうにご理解をいただきたいと思っています。具体的には企業誘致に向けては六郷インター周辺の整備について、具体的な予算化もして取り組んでいくということをございまして、また、今この計画とは別に都市計画マスタープランあるいは総合計画ということで町の方向性を決める計画も進めております。そういう中で新たなこの土地の利用の考え方、そして政策の進め方、種類、方向というものを、お示しをさせていただきたいと思っています。また、その政策と、町の資源、これを一対形にしてですね、新しい方向性、町のビジョンをお示しをできればというふうにご考えてございまして、まず、今の時点はこの財政の切り詰める部分をお示しさせていただいたというふうにご理解いただきたいと思います。

参加者 その辺はよくわかりました。ただ、先ほども言いましたように中側だけ、あるいは節約したりしてることだけでは到底、ここに大きく書かれているように破綻という言葉の大きさには到底追いつかない。静岡の長泉という町では製造業をかなり誘致しています。すごく住みやすいというふうな町になっています。できるかどうかは別として、そのようなアイデアであるとかビジョンであるとか、そういうものをもっと大々的に、それは市川三郷だけでなく、山梨県の管轄になるのであれば県と連

携をとって、そういうことをやっていこうという、お考えがあるかどうかということをちょっとお聞きしたかったんです。

政策推進課長

お答えいたします。現在取り組んでいることといたしまして六郷インター周辺の企業誘致を行っております。開発業者の方が中に入りまして製造業、物流、そして商業施設等の誘致を行っております。これで雇用を創出して、若者の定住、住宅の整備も合わせて考えております。歳入の部分で言いますとふるさと納税、通常のもの以外の企業版ふるさと納税ということで、町外の法人の方々にご協力をいただいて、ご寄付をいただく。法人の方の優位性という部分では、法人税の中から企業版のふるさと納税ということで税の軽減という部分も企業側にメリットがありますので、そういった営業を町長のトップセールスというようなことで、来月にも東京の方の会社を訪れ、積極的に県内または県外の法人にも働きかけをしております。

参加者

ありがとうございます。だんだん高齢化が進んで、人口も減っていくので、住民も税金がだんだん増えても困ってしまいます。よろしく願いいたします。ありがとうございます。

参加者

上野の者です。お疲れ様です。私の方から2点ほど伺いたいことがあります。1点、財政非常事態宣言を発したということで、町外、町内含めて不安に思ってる方が多くいるんじゃないかなと思うんですけども、今日の説明会の計画が、仮に成功をして、いい方向に向かったときに、この財政非常事態宣言の解除は、何か宣言のようなものをご検討されてるのかっていうのを伺いたいです。あと1点これ要望なんですけれども、今日の説明会の質疑応答についてですけれども、最初、司会の方が10分という形で1人1人割り振っているのかなと思うんですが、司会の進行の中でもう少し毅然とした態度をとっていただきたいなっていうところがありまして、皆さん自分の町のことなので、いろいろと意見があるのは当然かなとは思いますが、質疑応答を運営していく中で、質問を整理したり、事前に質問を受け付けたりっていうようなやり方を町の方で考えていただく必要があるのかなと思うので、1人1人、私みたいな簡単な質問で恐縮なんですけど、そういった方が数多くできるのがいい質疑応答なのかなと思うので、ご検討いただきたいなところなんです。

総務課長

ご質問ありがとうございます。宣言をして、これからいろんな取り組みをする中で、解除になったときに宣言をされるかということだと思います。その辺は十分予定をしていきたいと思っております。1つの目安としては、今回の目的の1つとなっております経常収支比率が98.1%、それを95%にしましょうということでもまずスタートしておりますので、それができた達成された際には、1つのクリアの宣言をさせていただく予定で頑張りたいと思います。それから進行の仕方につきましては申し訳ありません。今後気をつけるようにいたします。

参加者

富士見の者です。質問をさせていただきたいと思います。私どうしてもわからないことがあってですね、この基本計画の基本方針の方を見ました。その中で、「この難局を突破するには町民の皆様とこの危機的な状況を共有することが不可欠である。令和5年9月に財政非常事態宣言を発出し、財政健全化に向けた抜本的・集中的な取り組みのスタートの年となることを宣言いたしました」というふうにございますよね。町民の皆さんとこの状況を共有するということはどういうことでしょうか。いいですか、財政非常事態宣言、財政が大変だというなら、その地域に町長、副町長、課長、職員が行って細かく説明をすることじゃないですか。そして、その中で皆さんと協議をすることじゃないんですか。そういうことをしないで、なにが非常事態宣言ですか。それによってどのような影響があると思ってるんですか。そして、その手法とともに経過ですね。まず10月に住民説明会をいたしました。3ヶ所で行ってましたね。始め1時間の設定だったんですよ時間が。1時間でいろんな人の意見が聞けますか。その次にパブリックコメントとしまして、皆さんの意見も聴取しますよっていうことがありましたけれども、そのパブリックコメントなんですけど、51人の方からきてます。そして項目は245件です。ということは、1人の人が2~3こぐらいですね。いろいろ意見を述べておりますけれども、それを提出した人は51人しかいないんですよ。それで十分な意見を聞いたと共有したということができるんでしょうか。非常に私は疑問を感じております。9月に非常事態宣言を出して説明会をしました。パブリックコメントも取りました。そして今年1月の説明会をしました。その次は、令和6年3月議会なんです。手順を踏んでるからいいでしょうというふうに私はどうしても思えて仕方がないんですが、その点についてまずご答弁をお願いいたします。

総務課長	ご意見ありがとうございます。いろんなことを町としてもやらしていただいているのですが、やり方全てに回答があるわけではございませんので、できる限り皆様にご意見いただけるような機会を設けたいと思います。本日もそうですけれども、こういう場を今まではやれてこなかったという現実がございますので、そういうものについて臆せず取り組みながら、可能な限り皆様のご意見をいただけるような機会を増やしながから、今後取り組んでいきたいと思っております。
参加者	今の答弁って通り一遍の答弁ですよ。本当にね、魂がこもってない、ただ答弁をすればいいって答弁ですよ、私を感じたのは。それで、まず町が非常事態宣言をしたときに打ち出したのが、経常収支比率が98.1%。これは全国でワースト11位。このまま続けていくと夕張市になってしまうって言いましたよね。それがみんなの頭の中にあるわけですよ。それでずっと今進んでるわけ。ですから、この経常収支比率98.1%というのはどういう数字なのか、どうやったらこの98.1%が出てくるのか、それについて町長お答えください。すみません町長です。財政課長に聞いてるんじゃない。町長に聞いてます。
財政課長	財政課の森川と申します。よろしくお願いたします。用語の説明的なものですので、私から説明をさせていただきます。経常収支比率につきまして、令和3年度決算値において98.1%ということでございます。先ほどお話ありました通り、まず県内の市町村の中でワースト、全国の市町村の中でも11位ということでございますが、経常収支比率というのは、財政の弾力性を示している数値になります。その数字が高くなりますと財政の硬直化を示していることになります。分子の方に人件費、扶助費、公債費のように毎年度経常的に支出される経費に充当された一般財源になりまして、分母の方が地方税と地方交付税を中心とする、毎年度経常的に収入される一般財源をおき、その占める割合ということで経常収支比率がございまして、先ほど申し上げましたが、比率が高いほど財政構造の硬直化を示す数値でございます。
参加者	私ね、町長に聞いてるの。答えてください。答えられないでしょう。だから、経常収支比率って何なのかっていう、具体的にどういう数字なのかっていうことを答えてください。自分が言ってるんですよ。
町長	言葉の説明につきましては、財政課長が答えた通り、これをわかりや

すぐ説明をするようにということで、いろいろ考えてございましたけれども、1つは起き上がりこぼしですね。経常収支比率 100%になったら起き上がりこぼしは起き上がりません。

参加者 すみません。具体的な数字を言ってください。具体的な数字。わからないですか。

町長 承知しておりません。

参加者 ですよね。町長自身が、経常収支比率の出し方を数字を知らないんですよ。いいですか、これ凄く大切なことなんです。知らないで言ってるんです。全国ワースト 11 位。夕張になる。あなたそういうこと言ってるでしょ。ずっと疑問だったの。

町長 知ってる知らないじゃなくて、これは計算式があるからそれを当てはめれば計算できます。

参加者 ですからその数字を言ってくださいよって言ってるの、自分で。はい、そうですね。先ほど資料を渡しましたね。それを見てください。課長さんたちに資料渡しましたよね。経常収支比率っていうのは先ほど課長さんが説明をしたようなことで、分母が 61 億 2,472 万 8,000 円になります。分子が 60 億 719 万 8,000 円になります。それで 98.1 という数字が出ます。それは大変な数字なんです。これは町長さんも前々からそういうことは知ってますよね。こういう数字になります。しかし、あと 1.9% しか町に財源がないということではないんです。そうですね。歳入全体で市川三郷の場合、令和 3 年度で 98 億 4,388 万 5,000 円あります。歳出では 95 億 4,120 万 2,000 円あります。その経常的なものじゃないところを引き算をします。そうすると、あと 37 億 1,915 万 7,000 円のお金がある。これは投資的経費に出すことができるっていうことです。いいですか、37 億 1,915 万 7,000 円あるわけですよ。それを投資的なものに出すことができるっていうことです。町長としておかしいような発言をしていますので、その辺をぜひ自分の中に入れておいてください。

町長 ご指摘をいただいた点は議論させていただきたいと思いますが、補助金とかいろんな部分がございますので、純粋な数値だけではないということがございます。ただ、先ほども申し上げた通り、その経常収支比率

というのは、突発的な何か影響があったときに使えるお金がないということですので、ご理解をしていただきたいと思います。

参加者 まとめに入ります。数字っていうのはとっても大切なことであって、それを町民の皆さん1人1人も、本当にこういう数字なんだっていうことを勉強していただきたいと思います。何かわからないけれど、物事がどんどん進んでいく、そういう恐ろしさを私は感じております。ですから、私達町民もわかったつもりになるのではなくて、本当に正しく理解するそういう努力をする。そうしないと、市川三郷町、取り返しがつかない状況になると、私は大変恐れております。

参加者 市川地区の者です。ちょっと柔らかめにいきます。今回の計画案の方ですね、この先どのようなプロセスで実行に移っていくか教えてください。

総務課長 ありがとうございます。また必要であれば、こういう機会を改めて開いていきたいと思っておりますが、早速にも進めていかないと、非常事態をクリアできませんので、個別のアクションプランにつきましては、各担当がそれぞれの責任の中で関わる業務、関係者、施設等の利用者を含めながら、協議をさせていただきたいと思っております。必ずしも計画だから絶対こうじゃなきゃいけないということではなくて、皆様とお話をする中で、より良い最適な方法があれば、それを踏まえて考えていきたいというふうに思っておりますし、機会があれば報告会等もまた考えていきたいと思っております。

参加者 ありがとうございます。今日来て、動画配信をしていただけるということで、やったらいいなと僕も思っています。計画の内容について、人件費ももう少し減ってもいいかなと思っていたら、素案よりもかなり減ってきてですね、いいなと思うことがスピーディーに進められてきている執行部だなと思って聞いております。1点、過去についてなんですけど、20年前に市町村合併をして、20年前というともうやめられる方もたくさんいらっしゃると思うので直近の5年ぐらいに絞って、おそらくもうその頃から施設、箱物は減らしていかなきゃいけないことはわかってたと思うんですけど、その5年前の段階でも執行部の方から、こういう案が議会の方に上がっていたのか、いなかったのか。いたけど議会で否決されてしまったとか、また議会から反対とか、こういうのやらなきゃ駄目、

良くならないよっていうのが出なかったのかその点について聞かせてください。

総務課長 ありがとうございます。危機感を職員が感じていたことは事実です。とはいえ、皆様方とお話をしていく中で、そうやって政策的に上げていくところまでは至らなかった。それらの危機感を同じ轍を踏んではいけないと我々は思いまして、こういう段階で腹をくくるといふか、決意を固めて皆様と対峙させていただきながら、これから一緒に進んでいきたいというふうに思っております。

参加者 おそらく過去についてのところは反省して、今回この執行部が立ち上がっていただいて、財政非常事態宣言を発出されたのかなと思います。それによって私もしっかりと意識を持ち、私自身も正直 20 年何もしてこなかったですし、無関心でいたことはすごく反省して、これからどうしていけばいいのかなというふうと一緒に考えていければと思っております。その中で、YouTube、今度の 3 月議会から YouTube の動画配信をしていただけるということによろしいですか。定例会、それはもう YouTube 動画で配信されますでしょうか。

総務課長 ありがとうございます。今それに向けて実施できるように様々なところと交渉しながら検討しております。

参加者 わかりました。できるだけ早くしていただければと思っております。議会の YouTube 動画配信という皆さんの中でも、広島のア芸高田市石丸市長の YouTube 動画、その中で 10 月の説明会ですかね。ア芸高田市の 10 月の財政説明会の一番最後のところに市川三郷町とは出ませんでしたけども山梨県のとある町という形で出てました。その中で町が説明会をしたときに食ってかかれてしまった。つるし上げられてしまった。それはやっぱり、住民の意識改革が進んでなかった。先ほどもあるように説明のところを要約をしていただいている最中にはありますが、もうちょっとペーパーに沿ってやっぱりいろんな大きいテーマになるといろんな意見が出てしまうので、神明の花火、市川三郷町立病院と絞って説明会をどんどんしていただいて、また財政説明なども YouTube で上げていただければ、私達世代は仕事をしながらになります、見れていけるかなと思っております。なぜっていうところに関しては、やっていかなきゃ財政破綻してしまうのはわかるので、何のためにというところを説

明するときに、私で言うと自分の子供、孫のために少しの我慢をして、より良いバトンを渡したいと思っているので、その辺を強調して説明していけるとより良くなってくるかなと思います。話が違って申し訳ないんですが、去年 1 年間で生成 AI ってというのが世の中に出回ってきたわけですが、DX でもいいんですが、市川三郷町として生成 AI についてどのような取り組みをしているか。お聞かせください。

総務課長

ありがとうございます。子や孫、次の世代のためにということで町長も最初からそういう思いの中で、我々もそれを共通認識として持っておりまして、次世代に繋げていく SDGs と言われますけれども、きちんと市川三郷町が自治体として、次の世代に向けても、存続をして皆様の住民サービスを支えられるようにやっていきたいというふうに思っております。また、そのために今言われました DX、そういう部分は非常に大切な部分だと思っております。職員 1 人 1 人がスキルアップすることはもちろんですけども、いろんなニーズが多様化をしております。また高度化をしております。1 人 1 人の職員がフルタイムで働いても、なかなかこなしきれない現実が出てきております。デジタルでできる部分については、そういうものをお願いをし、きちんと処理をして、職員として住民の皆様と接していかなければいけない、いわゆるコアな部分について時間をしっかりかけて対応できるような職員の組織。それから職員がそれに対応できるスキルアップそういうものに向けて勉強もできる、そういう組織と職員になっていけるように今考えておりますので、ぜひご理解をいただきながら、またご協力いただければと思います。よろしく申し上げます。

参加者

まさに生成 AI を取り入れていけば、おそらく 12 月の議会、まだホームページに議事録が上がってなかったかとは思いますが、このあたりも間違いはあると思うんですが、その間違いを課長さんがチェックしてやっていけば、おそらくもっと早いペースでどんどん議事録を作れていくと思います。未来がっていうところで私は小学校 4 年生の子供がいます。未来ある話っていうところで今日教育長の渡井先生もいらっしゃるので、市川小学校の授業を見に行ったときに算数の授業だったんですが、アクティブラーニングでしょうかね、先生が 5 人ぐらいの個人の生徒に担当して教えてるグループ、それから 3~4 人のグループでチームで考えるグループ、個人で考えるグループみたいな、昔と全然違う授業の仕方してるのはいいなって思いながら、我が町の教育ってのはちょっと

と前に進んでるんじゃないかなって勝手に思っているのですが、この町の教育は、どの辺りにいるでしょうか。

教育長 ありがとうございます。教育長の渡井渡と申します。我が町の教育のレベルということで、ご質問いただきありがとうございます。他と比較してどうこうということは一概に言えませんが、数年前から学校ではGIGA スクール構想の中で、子供たち1人1人にパソコンを手渡ししていて、非常にデジタルの授業が日進月歩で進んでおります。今言われたようなアクティブラーニング、能動的な授業も行われていますし、来週には市川小学校でもっと進んだ最新のデジタル機器を使った授業の取り組みも行われるということで、そういった面では子供たちの教育環境が非常に良い方向に進んでおり、学校の先生たちも非常に熱心に取り組んで町でもそれを押しながらやっている、そういう状況であります。

参加者 ありがとうございます。本当に先を行っていると思ひまして、まさにここが未来あるところであり、特に市川地区の小学校・中学校であれば町長さんがしっかりと責任を取っていただいて、渡井先生の方で改革していけば、この町の一つの産業じゃないですけど、神奈川の方で言えば工藤式、山梨県でも藤原式みたいな感じで、本町においては渡井式みたいな形で、渡井式教育改革、この発信が大事だと思うんですね。先ほど何度も非常事態宣言のところがちょっと悪の方に行ってると思うんですが、確かにバッドなニュースなんですけど、注目されるっていうのはものすごく重要かと思ひます。注目したことによって県外の息子さんからふるさと納税が入る。これ最初はバッドでもいいですよ。とにかく注目をたくさん集めることによって企業誘致もあり、先ほど町長も2,000万ですか、これも注目されたことによって増えてくると思うんです。なので教育の町みたいな教育を改革していく渡井式、せっかく渡井先生っていう教育のスペシャリストがいらっしゃるんで、遠藤町長が先頭切ってトップセールス、こういう町にしていくんだっていう発信をYouTubeを使うことによって、なかなか私達では財政非常事態宣言を出して、土地買って家建てましようっていかないと思うところが、いい教育をしてってなれば、その町に自分の子供を入学させたいっていうような流れになると思ひます。遠藤町長そういった町のプランニングっていうのはいかがでしょうか。

町長 本当にありがとうございます。まさに私も子供の教育っていうのは、

非常に重点を置いている部分でございまして、この町の特徴として、地域に誇りがある、あるいは地域に愛着がある方が非常に他の自治体に比べて多いという。これも今、教育長が申し上げたような取り組みもございしますが、ふるさとキャリア教育とって地域と密着した教育もございします。子供たちが、この地域にどんな産業があるのか、あるいはどんな文化があるのかっていうことを、日々勉強していただいております。いろんな議論がありましたけれども、今の教育はアクティブラーニング、これは主体的、能動的な教育方針ということで自己肯定感、自己有用感、これを高めていくということが狙いでございします。幸い山梨県がこの自己有用感、自己肯定感、これが非常に高いというような状況でございまして、まさにこの市川三郷の教育のおかげで、さらにこの地域を愛している、誇りがある子供が多く育つというふうに理解をしておりますし、今後もこういった教育を進めていきたいというふうに思いますので、いろいろPTA活動もご苦労されると思いますけれども、今後ともよろしくお願ひしたいと思ひます。

参加者 ありがとうございます。やっぱりIT技術は学校教育にもすごく、特に自治体、教員はすごく活用できる流れであると思ひます。ただ、教員がその勉強に追いついてなくて生徒の方が先にChatGPT使っちゃうなんていうのは大いにあることかと思ひんですが、ぜひ夏休みの宿題とかもです、ね、ルールを作ってほしいですが、子供たちには読書感想文の夏休みの宿題以外にも、ChatGPTを使って何か市川三郷町の財政を回復するにはどうしたらいいかっていうような、もしくは動画、映画とかも作って、それを宿題にしてコンクールに出してとか、中学生の教育になれば社会に出すことが大事だと思ひんで、隔週金曜日に企業を見に行くとか、そういった改革案を作っていけば、より良い町になると思ひますし、最後に私達現役世代は、教育が良くなれば必ずそこに行ってみたいって思ひます。山梨だけじゃなくて東京から来ていただければ、空き家バンクもあると思ひますので、そういった改革を望んでおります。すみません長くなって申し訳ありません。

参加者 市川大門の者です。ご苦労様です。今回この非常事態宣言を出したっていうことについて本当にびっくりしたんですけれども、勇気ある決断だったと私は評価しています。遠藤町長が就任する前から赤字が続いていた町で、そういうことを町民や役場職員、議員さんたちは、私達知らなかった、目を背けていた議員や役場の職員が黙認していたということ

ですよね。それを知っていたにも関わらず町民にそういう情報提供しないで、こういう事態、経常収支比率が 98.1%になったことに対して、町長はこういう決断をされたということは私は結果的には良かったと思います。これはピンチをチャンスに変える 1 つのきっかけだと思います。こうやって多くの皆さんが集まるってということは、それだけ今回のことで町のことに関心を持って集まってくださっていると思いますので、ぜひ頑張ってくださいと思います。1 つ気になっているのは、今回人事院勧告で公務員の給料はベースアップしましたが、市川三郷町の職員に関しては議会で、それをしないってことで採決されて給与のベースアップを行わなかった。そういう中で、今後、能力のある若者が市川三郷町に就職をするか、役場職員としての質の低下にもなりますので、その辺はやはり最前線で働いていただく職員は仕事に見合った報酬が得られれば、やる気も出ますしモチベーションも上がると思いますので、すぐにどうこうってわけではないんですが、ただ単に給料を減らせばいいかっていう問題ではないと思いますので、質の低下を招かないで欲しいという事ですね。それから今日配られた資料の裏側に、管理職登用試験実施という左の基本方針 1 の上から 3 行目にありますが、ぜひこれはしてほしいと思います。今いる管理職の方々が能力がないとか申し上げているわけではございませんが、やはりその分野に精通した方に、その部署の管理職をやっていただかなければ私達がいろいろ要求していても答えられませんよね。そういうことになりますので、その職に就いた管理職の方々にはしっかり仕事をしていただきたいと思います。私が今回こんなことを言ったのは、ニードスポーツセンターの廃止に関わって様々な署名活動をやって請願をして、六郷の里運営委員会で、当面の間は施設を存続するっていう方向で答申を出したんですが、今回の非常事態宣言の中では廃止施設の中に挙がっています。ですが、六郷の里運営委員会の中では経営内容について見直し、努力できる点がたくさんあるのに、それをしないまま単に赤字額が多いからっていう理由で切り捨てるのはやめてほしい。努力をする。何とか利用者を増やす。例えば、つむぎの湯にしても利用者を増やすとか、そういう町としてのプランを出して、それでもなお赤字が消えないね、1 年か 2 年見ても駄目なら利用者としても諦めざるを得ないと思いますが、今の時点で数字だけで判断しないで欲しいということは強く要望します。それともう 1 点、基本方針 3 の上から 4 つ目に神明の花火大会について書いてありますが、神明の花火大会の自走化という言葉の意味がよくわからないんですが説明をお願いいたします。

商工観光課長

商工観光課長の望月順二と申します。よろしくお願いたします。神明の花火の自走化ということですが、効率化ということも含めまして、まずは運営経費の確保と運営をする外部団体を設立をして、そちらの方に移行していくということを示しております。現在、神明の花火につきましては商工観光課で事務局を持っており、実行委員会形式で運営しております。運営に関します経費につきましては、一部町から補助金を受けて運営しております。昨年の8月7日の第35回神明の花火につきましては実行委員会の了承を得まして、先ほど町長の話の中でもありましたが、有料観覧席の値上げをさせていただいて財源の確保に取り組みました。その結果、町からいただいた補助金を全額返還することができる、さらには黒字でしたので、その黒字の部分を町の方に寄付ができるような見込みでいます。財源の確保をしていき、更には外部団体を設立をして、町で事務局を持っている実行委員会から外部団体の方に運営を移行し、町の補助金とかに頼らないで独自に花火大会の運営をしていくということを目指そうとしております。

総務課長

いくつかご質問いただいて最後の質問の回答が先になってしまい申し訳ありません。まず、職員の人勧の関係でご質問いただきましたが、質の低下を招かないようにということでございます。我々職員としても十分に理解をしております。今回のことに関しては、この財政非常事態に向けて、職員が苦渋の中でいろんな話し合いをしていきたいという中で永久的ではなくて、現段階としては我々の決意を示しながら、職員が町民の皆様と一緒に前を向いてやっていこうという決意の一端だというふうにご理解いただければと思います。我々役場職員、来年度採用の方も非常に高い倍率の中で厳しい状況にご理解いただいている中で、受験をしていただいています。そういう中で、思いのある志の高い職員が新しく入ってきて仲間になってくれると思っておりますので、丁寧に育てながらやっていきたいと思っております。また、管理職についての登用試験の関係についても、しっかりとやっていきたいと思っておりますが、職員の人材育成には、ある程度長い期間が必要ですので、管理職のみならず、これから上がってくる若手職員にはジョブローテーションを育成プランの中で与えていこうというふうにしておりますし、それをやり始めて今年で3年目になります。若い職員にはゼネラリストとして学ぶための期間を10年から13年ぐらいの間で与えて、その中でどういう分野に強いのか、財政的なものが強い、町民の皆様と触れ合うものが強い、教育

分野が強い、いろいろなものを評価をしていく中でスペシャリストに育てていくということを考えております。その中で、得意な分野のスペシャリストになった人間が部署のトップになっていくことは住民の皆様のニーズにきちんと応えられる。そういう組織にも繋がっていくものと思っておりますので、時間はかかるかもしれませんが、そういう歩みをしっかり始めていますのでご理解いただきたいと思っております。それからニードスポーツセンター、経営内容の見直しも含めて、先ほども少しお話をさせていただきましたが、これから個別にお話をさせていただく中で、最適な方法を皆さんと一緒に見つけていきたいというふうに思っております。民間等で、例えば指定管理を受けていただいて継続していくということも可能かもしれませんが、そういう動きも含めいろいろ考えて検討していきたいというふうに思っておりますので、今やっていることが先ほど言ったようにごり押しではなくて、最適化を求めていくための町の現段階での方針というふうにご理解いただければと思います。決してこれだけで、他にプランを出さないということではなくて、一緒に皆さんと考えてやっていきたいと思っておりますのでご理解いただきたいと思っております。

参加者 町が今回提案した様々な政策案に関しては決して批判するのではなく、ともに考えてやっていきたいというか、そういう思いを持って、住民として暮らしていますので、ぜひ役場の方々には頑張ってくださいなと思います。先ほどの神明の花火大会の民間の組織に委託するという形になるんですか。業務委託という形になるのでしょうか。

町長 後ほど担当課長から詳細についてお答えしますが、他の地域では観光協会みたいなものがある、いろいろな観光業を行っております。神明の花火大会は、先ほど申し上げましたように非常に大きな大会になってきたということで、これが役場の職務よりもっと活動ができるような組織体にするためには、観光協会に似たような組織にして運営をしていった方がいいだろうということでDMOを作り自走化を目指したいと考えております。

商工観光課長 今町長からDMOという話が出ましたけれども、これからどういった団体を設立をして、その団体にどのように運営していってもらおうかっていうのは、これから検討をしていかなきゃならないと思っているんですが、1つは今のDMOという話がありましたけれども、このDMOというの

は温泉街等にある観光協会とは少し違います。観光地域作り法人といいまして、観光をメインにしながら地域作りをしていこうというところなんです。そのDMOを作り、そこで花火大会の運営費の確保から、人員の確保、花火を上げるための交渉といったことを全て含めて行えるような団体を作っていきたい。その1つとしてDMOを目指していきたいと考えております。

参加者 ありがとうございます。そういうふうに変えていくっていうのはいいと思うんですが、町にお金が落ちるような方法、例えば民泊とか翌日に四尾連湖でキャンプをする、はんこ作り体験をする、和紙の紙すき体験をするといった組み合わせで、翌日も町で何かお金を落としていくような方法を団体で考えて、収益が上がるようなイベントとして、町の一大イベントですのでやっていっていったらいいんじゃないかなと思いました。ありがとうございます。

参加者 私が市川三郷町に嫁いできたのはずいぶん昔になりますけれども、とても最初は賑やかな町でした。そういう記憶が鮮明にございます。しかし、お店がだんだん少なくなってしまって、今はとても寂しい雰囲気になってしまっているんです。大型のお店も飲食店も、この市川には現在ないような状況で昭和町にみんな買い物に行ったり、市川三郷以外のところに実は皆さん買い物に行ってしまうのが現実ですね。こういうお店が今のようにだんだんなくなっていけば、もちろん先ほどから皆さんおっしゃってる税金も入ってこないでしょうし、人も集まってこないし、税金も入ってこないし、とてもいい循環にはなれないと思うので、こういうところをまた再建していくことが大事だと思います。

参加者 より良い行財政改革をしながら、より良い市川三郷町を目指すということは大変大事なことです。とても私も期待しています。そういう気持ちもあって今日説明会に参加しました。私が申し上げたことは3つあります。お願いも含めまして、1つ目はお願いになります。お願いというのがまず司会者の方、1人10分間という話がございましたが、なかなか話が始まっちゃうと皆さん10分っていうのが守れなくて、私も言いたいことがたくさんあったので、10分って時間を守っていただければありがたいと思います。2つ目のお願いです。皆さん、会場からも議会の様子をYouTubeで発信したらどうかという意見がございまして、聞こえない私達もとっても大賛成です。聞こえない私達は、もちろん皆様のよ

うに音声が入ってきませんから。でも皆さん市川のことにとっても関心を持っているんです。議会の様子をYouTubeで見ても、私達にとっては映像しか入ってこなくて、何を喋っているかということは理解できません。議会の様子は、こんな状況なので私も関心を持って何を話しているのか、ぜひ知りたいです。そこに字幕や手話通訳が入っていれば、私達も市川三郷町の聞こえない住民としても大変関心を持てますし、意見を持てます。そんな改革をしてほしいです。それから、YouTubeの作成ですが、町外の人たちと話す機会もありますが、聞こえない人もすごく市川三郷町の動画の関心を持っていて、面白いって言ってくれるんですね。これからも、例えば大塚にんじんや市川三郷レンジャーのことを町外の人の方が知っていて、意外と町内の方が知らなかったりするんですね。とても勿体ないことです。大塚にんじんだけじゃなく、町の中の特産品、六郷は日本一のはんこの町なんだということ。また、お祭りもあるということ。ぜひ動画にも入れて全国に発信してほしいです。全国各地にもいいPRになりますし、私達聞こえない方もとても関心を持って見えています。最後にこれは質問です。資料の基本方針2の中にあります庁舎等の施設の適正化を通して地域の交通体制の抜本的見直しというところが記載されてありますが、これは具体的にどういうことをイメージしているのでしょうか。三珠、市川、六郷の地域を比べますと他の2つの地域と違って、六郷の地域は少し地理的に離れているので、1月1日の石川県能登に大きな地震がございましたが、その様子を見ても六郷は特に山間地域ですね。何か起こったときに、どんなふうな支援ができるのかということも考えました。ここの赤文字で書いてるところは特に災害時などを見据えた中でどんなふうに調整していくのか、どんなふうに見直していくのかということ。支援体制も頭に入れながら、イメージをされてると思いますが、具体的なお話をお聞きしたいと思います。

政策推進課長

私の方から地域公共交通体制の抜本的見直しについて説明をさせていただきます。現在、コミュニティバスが4路線走っておりまして、三珠、山保、六郷線そして六郷循環線が町内を運行しております。この運行形態というのは、19年前の合併前後をベースに運行されておりまして、人口減少や高齢化など各地域における状況は様々です。専門的な視点で十分な検討が必要となっております。また、公共施設の統廃合も見据えて、持続可能な地域公共交通網を形成するために、公共交通政策のマスタープランとなります地域公共交通計画を令和6年から令和7年に

かけて策定する予定でございます。コミュニティバス以外にも山間地の対応もできるような形態というものもしっかりと構築をしていきたいと考えてございます。

防災課長 防災課長の林茂一といいます。皆さん、私もそうなのですが、1月1日に携帯、スマホにすごい音がして何が起きたんだ、というような状態だったと思います。私もびっくりしてこれが南海トラフ地震なのかと思い、すぐテレビをつけ、メールに入ってきたものを確認してみると能登の地震だったわけでございます。私のところも震度3ということで揺れてびっくりしました。その中で、これまでもいろんな震災、災害が起きております。熊本、東日本、今回の能登といろんなパターンがありまして、現在町でも全て対応できるのかって言われると、それは難しいと思います。これらの情報を収集しながら、町内におります防災士会の皆様、各地区にあります自主防災会の方々と協力しまして、どんな準備をしていけばいいのかということも検討しながら、今後進めてまいりたいと思います。また、皆様、聴覚障害者の方は特に情報は少ないと思いますので、どういう形で情報を伝えていけばいいのかということも考えていきたいと思います。

総務課長 もう1つのYouTube配信などのテロップもしくは手話通訳という部分でございますが、我々もその辺のことは十分に理解をしておりますし、必要性を感じておりますので今検討している中には既にその辺も含めて検討しております。実施していく段階においては、可能な限り皆様に情報がしっかり伝わるような方法を考えたいというふうに思っておりますのでご理解いただければと思います。

参加者 ありがとうございます。よろしくお願いたします。

参加者 六郷地区の者です。私今単身赴任で週末だけ帰ってくるんですけども、宣言出されたときも県外にいて、市川三郷町で何が起きているのかなっていうふうな感じでいたんですけども、今日初めてこういうところに出させてもらって皆さんのいろんな意見を聞かせてもらいました。起こってしまったことはしょうがないし、遠藤町長に文句や不満もあると思いますが、たまたま遠藤町長が町長になってここで腹を括って言ってくれたというところで、皆さんも不平不満もあると思うんですけども、宣言してしまっただけでこの状況になってしまったんですから、建設的な意

見、不平不満等自分の気持ちを今ここでぶつけるんじゃないなくて、この先市川三郷町がどうしたら良くなっていくのかという質疑応答を、初めに言えばよかったと思いますが、そういった意見を言って限られた時間の中で次また参加される方もいると思うんですけども、そういったことでやっていただければと思います。当然町長、役場職員の方も重々今の状況はわかって反省をしているので、責めるのではなくて、こうしたらいいんじゃないかっていうことを伝えて、この先「突破」できるように皆さんも協力していただけたらと思います。よろしくお願いします。

参加者

市川大門の者です。自分まだ社会人になって半年なんですけど、財政とか行政のことについて全く知らない素人なんですけど、1つだけ。いろいろと説明してくれましたが、やっぱり素人が聞いていても何を言っているのかほとんどわからないっていうのが実情です。専門的な勉強をしていないんで仕方ないんですけど、勉強してこなかったっていうのも町民として反省します。そもそも自分も町民としては不誠実な町民としか言いようがないんですけど、実際市川でほとんどお金を使っていません。ここ1年だとセブンイレブンとローソンとコインランドリーとENEOSぐらいです。なぜかという、とりしんとか竹田屋とかテレビで取り上げられたところもあるんですけど、何を食べられるのか全く知りません。人間ってあまり知らない情報っていうのは恐れが出て近寄らなかつたりするんです。例に漏れず自分もそうで、何か発信してくれないと、どういうところなのかっていうのは、実際わかんないわけですよ。これは町も同じで、どんな町なのかっていうのを発信しないと誰も来ません。この町はそれが全くできていないとしか言いようがありません。役場のところに核廃絶宣言の町って書いてありますが、そんな言葉は聞いたことがありません。平塩の方に、甲斐源氏発祥の地という石碑が立っていますけど、それについても前に武田氏の研究の本を見ましたが、曖昧でわかっていないとしか書いてありません。他にも歌舞伎文化公園には市川團十郎発祥の地と書いてありますが、市川團十郎さんに会ったことも見たこともありません。来たっていうことすら聞いたことがありません。さらには、ゆるキャンに出ました四尾連湖においても、その後に関連の何かをやった記憶もございません。駅についても JR との問題があるので何もいうことはありません。ここに施設の最適化と書いてありますが、こういうことはいいと思うんですけど、統廃合をした結果もし何か問題が起きてしまった場合は、どうすればいいんでしょうか。問題が起きてからでは遅すぎます。これは防災にもいえます。実際地震が

起きましたけど、日本全体で見ても林業が衰退して手入れが行き届いていない状態で、外国を見ると、こういうのを疎かにしているとカルフォルニアでは山火事が起きて、その原因は山の整備ができておらず、住民が民間企業と協力して対策を講じていました。その上で町防災に関してもあまりイメージありません。市川では、あまり河川の氾濫といった被害についてはありません。だとしても防災の視点から河川や山の管理を疎かにしちゃいけないので、行財政改革で浮いたお金でやっていただきたいと思います。今回の説明会に関して評価できるのは、土曜日にやっていただいたことぐらいです。ここにいる人たちには、僕達20代、10代がほとんど来ていません。やはり町に住む人に協力を仰ぐ以上、10代や20代の意見も入れるべきですし、若者の意見を取り入れないと意味がないと思います。若者の発想力を侮っているとしか言いようがありません。自分も何も出来ていないので、これから意見書を出したりしたいと思っています。考えればいろいろ思いつくことがあって、例えば六郷のはんこは今不況ですけど、これは印章に関してであって、印章というのを抜きにすればキャラクターの判子とかは、イベント等で一定数売れてるわけですよ。他には花火の席をふるさと納税の返礼品にしたり、花火師さんをお願いして体験ができるようにする。先ほど言った歌舞伎文化公園に市川團十郎さんたちを呼んで何かしてもらったり、碑林公園であれば中国関係で何かやったりとかすれば、国際交流の場を作ったっていうことで評価されるはずですよ。他にも先ほど言った甲斐源氏の史跡の調査などもどんどんやってもらって、その人たちがこの町で料理を食べたり、物を買ったり、水を買ったりすれば少ないけど、それが積み重なっていけば、大きなものになると思うんですよ。行財政改革だけじゃなく、地域への情報発信や地域の特産品などをもっとアピールすれば、赤字も少しずつだけ良くなると思います。最後に言いたいのは、昔AKBの総監督の高橋みなみさんが言ってたんですけど、努力は必ず報われる、実際努力しなければ何も意味がありません。ずっと努力してなかったから、こういうことが今回起きたんだと思います。それは今言っても仕方ないと思いますので、これからは期待します。最後に質問もいろいろあったんですけど時間がないので、今日はこれで終わりにしたいと思います。ありがとうございました。

(5) 閉会 午後1時00分